

東京武蔵野多摩ワイズメンズクラブ

東京YMCA西東京センター内 〒186-0002東京都国立市東1-4-20-102
TEL 042-577-6181 FAX 042-577-5574

【2016～2017主題】

国際会長 Joan Wilson
アジア地域会長 Tung Ming Hsiao
東日本区理事 利根川 恵子
あずさ部長 浅羽 俊一郎
東京武蔵野多摩会長 山口 直樹

「Our Future begins Today」
「Respect Y's Movement」
「For the Future, Act Today!」
「あずさ部は賜物の宝庫。もっと活かそうぜ!」
「一歩一歩前に進もう。Yと共に!」

【クラブ役員】

会長 山口直樹
副会長 板村哲也
副会長 伊佐節子
会計 宮内友弥
書記 渡辺大輔

2017年 今月の聖句

疲れた者、重荷を負うものは、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。
(マタイによる福音書 11章 28節)

ワイズメンズクラブモットー

強い義務感をもとう 義務は全ての権利に伴う

五つの誓い

1. 自分を愛するように隣人を愛そう
1. 青少年のためにYMCAに尽くそう
1. 世界的視野をもって国際親善を図ろう
1. 義務を果たしてこそ権利が生ずる事を悟ろう
1. 会合には出席第一、社会には奉仕第一を旨としよう

ワイズメンズクラブの目的

1. 個人的にもまたクラブとしても、その奉仕活動を通じてYMCAの活動を支援する。
2. ワイズメンにふさわしい他の団体を支援する。
3. 地域社会や国際的な問題に関心を持ち、一党一派に偏らない正義を追求する。
4. 宗教・社会・経済・国際などの諸問題について会員を啓発し積極的に参加させる。
5. 健全な交友関係を作り出す。
6. この協会の国際・地域・区の事業を支援する。

2月例会プログラム

- 強調月間：BF
日時：3月8日(水) 19:00～21:00
場所：東京YMCA西東京コミュニティーセンター
司会：宮内 受付：板村、清水
ドライバー：野尻
* 開会点鐘 (会長)
* ワイズソング、聖句朗読 (山口)
* ゲスト・ビジター紹介 (会長)
* 夕食
* 卓話 樋上さん
「『発達障がい』ってなんだろう?」
* ハッピー・パースデー
* YMCA報告
* にこにこ
* 閉会点鐘 (会長)
* 今月のハッピーパースデー
1983年3月6日：クラブチャーター
5日：山本メネット
26日：麻生 由美子さん
28日：山口 直樹さん

2月例会報告

在籍者	13名
出席者	9名
メーキャップ	1名
出席率	77%
ゲスト	0名
ビジター	4名
ネット・コメット	0名
にこにこ	6,685円

【お願い】

4月1～2日に行われる「くにたちさくらフェスティバル」にてバザーを行います。バザー検品にご協力お願い致します。

テーマ「『発達障がい』ってなんだろう?」

<卓話者紹介>

2016年5月に東京YMCA西東京コミュニティーセンターに入職。早稲田大学大学院にて、臨床心理学を専攻。現在、発達障がいやその周辺に課題を持つ子どもたちを対象としたソーシャルスキルトレーニングを行うASCAクラスの講師、昨年6月より開設した放課後等デイサービス“さくら国立”の指導員を行っています。世間でも広く使われるようになってきた「発達障がい」の歴史と西東京センターが発達障がい児・者を対象に行っている活動について紹介します。



樋上 巧洋 (きしめん)

【強調月間コーナー】

3月：BF

BFは、Brotherhood Fundの略称で、BF代表や国際役員が公式の旅行をするために積み立てられる基金です。今年度の東日本区の目標は、メンバー1人当たり2,000円です。資金集めの方法としては、使用済み郵便切手を集める方法と、現金による方法があります。

BF代表とは、国際から旅費を支給されて、他地域を訪問する代表のことで、前年度のBF拠出実績に応じて国際のBF使途委員会が今年度のBF代表枠(どの地域からどの地域へ何人)を決めて、公募します。

BF代表にはフルグラント(全額補助)とパーシャルグラント(一部補助)の2種類があります。フルグラントは少なくとも3週間、他地域のクラブを目的を持って訪問します。スケジュールは訪問先のTC(トラベルコーディネーター)のつくる旅程によって行動します。パーシャルグラントは国際大会や地域大会(アジア大会)に参加する際に実費の50%程度の補助が与えられます。大会出席以外の義務はありません。(TM)

巻頭言

タイの今

山本 宏

初めてタイを訪れたのは、1997年のアジア通貨危機直後の98年3月のことで、バンコクのいたるところに建築途中でストップしているビルが見られ経済環境の厳しさを目の当たりにしました。

その頃は、まだ、BTS(モノレール)は未完成、高速道路も少なく道路の渋滞は日常茶飯事でした。翌99年、タイ、カンボジャ、ラオス等の大学生を対象にした奨学金基金を個人で設立した友人の誘いがあり、タイ東北部のコンケン大学の大学生に奨学金を贈与することとし、これがタイとの関係が深くなったことの始まりである。現在奨学生は8名おり、学生一人を除き社会人になっており、ロイヤルミリタリーアカデミーの教授、歯科医、化学会社研究員、中学校教員など多様で、彼女たちのさらなる成長が大きな楽しみである。

また、彼女たちの卒業式には数度出席したが、いずれの場合も王女(国王の代理)が出席、祝辞を述べるとともに、卒業生一人一人に卒業証書を授与するのが極めて印象的であった。

(全体で3~4時間かかる)このような点からも王室と国民の近さを強く感じた。2016年10月国民に非常に慕われていたプミポン国王が死去、ワチラロンコン新国王即位となったが、前国王同様国民の尊敬を得られるかは定かではない。一方、現政権は軍のクーデターによって成立したもので、新憲法制定一総選挙一民主政権発足の過程にある。また、クーデターにより追放されたタクシン氏も農村部には今なお強い支持がある。

今年2月訪タイした感想としては、バンコクには依然黒服姿のタイ人が多く、前国王の写真が市内のいたるところに掲げられている。

前述したように、民政への移行、タクシン派の復権の可能性、新国王の不人気など不安定要因を抱え、これまで同様安定した成長を遂げられるかにつき注視する必要がある。

2017年2月例会報告

日時 2月8日(水) 19時~

会場 東京YMCA西東京コミュニティーセンター

司会:麻生 受付:野尻、伊佐

ドライバー:野尻

メンバー:9名、ビジター:4名、ゲスト:0名

「2月例会報告(健康増進カフェ模擬体験会)」

2月例会は、都立多摩総合医療センター検査科医長の江夏ワイズ(長野クラブ)が、府中駅前毎月行っている「健康増進カフェ」の模擬体験例会として行った。

昨年9月にも例会で、「健康増進カフェ」について成り立ちから現状を話してもらった。この活動を武蔵野多摩クラブでサポートしながら、国立地域(具体的には西東京センター)においても広げられないかとの模索として、今回のカフェ模擬体験の実施となった。始めに江夏さんよりカフェの狙いについて話してもらった。

この運動はNPO法人「多摩の医療健康増進フォーラム」の活動として行われており、病院や医者と患者さんの間に高い敷居があり、それを低くするとともに患者さんの意見(不満や面と向かっては聞きにくいこと)をじかに聞きたいと、地域に出て少人数での茶話会を始めた。現在、10名ほどの参加者で行っている。

今回のテーマは「あなたは最期をどこで迎えたいか」であった。手作りのデータが満載の資料を基に話が始めた。ポイントを以下に記す。

・日本の死亡者の数は約130万人(2016年)で、2039年には約167万人にも達するとの予想が出ている。また、最期を迎えたい場所の希望は自宅が約55%であるのに、実際は病院が80%とのデータがある。また、今後多死時代を迎え看取りの施設不足になってしまい、2030年には47万人もの人が看取り難民になってしまうとの予測がある。そこで自宅も含め地域での看取りができる体制が求められているが、大変難しい状況である。

・施設や地域で介護を受けることになるが、介護人材の不足もあり、ケアの質はいろいろと問題が感じられる。今後経過していく場所についていろいろと厳しい状況が考えられる。

・また、救急車を呼ぶとのことは、延命治療を始めてほしいとのこととして医療現場はとらえざるを得ない現状があるので、注意が必要である。

・病院など医療現場での最終段階での医療の決定プロセスのガイドラインなど出ているが、本人の意思が最重要であり、家族も含めてそのことを常に話している必要性が大いにある。実際は、本人と家族などの意思確認がほとんどなされていない現状である。

以上の話を受け、参加者からの質問や意見が多く出た。中沢さんから御家族のお話や、山田さんからアメリカでの高齢者コミュニティでの体験などが紹介されいつまでも話は尽きないテーマであった。かかりつけ医は大切であるが、実際には不足している状況、食べることの大切さなど様々のポイントも浮かんできた。

我々全員にとって切実で身近な問題であり、すべては語りつくせない状況であったが、気軽に膝を突き合わせながら大切な問題を語り合うことを味わうことができた。

今後、この活動をどのようにサポートしていくかを西東京センターと共に考え検討していくよききっかけとなった。(記録:山口 直樹)

・第2回あずさ部 安兵衛評議会

2017年2月11日(13:30~16:30)

東京サンライズクラブがホストクラブで東京YMCA山手センターで行われ参加者は59名でした。

- ・次期部役員
- ・次期部長推薦
- ・部選代議員推薦
- ・部監事推薦

・CS助成金配分について
について、各承認され、最後に部歌が部長より発表されました。

参加者:山口、板村、渡辺、伊佐

(記録:渡辺 大輔)

§その他、会員の委員会等出席情報

4-5日:東西ワイズ交流会@東山荘(宮内、山口)

11日:あずさ部評議会(伊佐、板村、山口、渡辺)

18日:東新部EMCシンポジウム

(麻生、伊佐、板村、大輪、野尻、山口、渡辺)

24日:定款改定委員会(宮内)



東西日本区交流会に参加して

宮内 友弥

2月4日(土)～5日(日)、御殿場の日本YMCA同盟・東山荘で開催された第2回東西日本区交流会に山口さんと共に参加しました。参加者は、東日本区188名、西日本区171名、台湾区台北A-LISTクラブ11名(交流会にて大阪泉北クラブとIBC締結)合計370名。日本区が東・西日本区に分かれて20年を機に、大会テーマの「語り合う！未来につなぐワイズスピリット」の基で12年振りに開催されたものです。

初日は、午後2時第1部開会。利根川理事の開会点鐘、田中実行委員長開会の挨拶、来賓及び理事挨拶(島田同盟総主事、神崎同盟次期総主事、利根川・岩本両区理事)があり、その後日本YMCA同盟理事中道基夫さん(神戸クラブ)による講演「YMCAのブランディングとワイズ」、堀口東山荘所長による歓迎挨拶と「東山荘の歴史」と続き開会式、講演を終了しました。第2部の交流プログラムは、LT/LD、IBC/DBC、エクステンション、音楽、ダンス、ウォーキング、ヤング、メネット等々、各交流プログラムに自由選択参加。

私は、「エクステンション」に参加し「国際、アジアのエクステンションの現状」を用意したPPでプレゼンの機会を与えられました。第3部の夕食懇談会は、体育館にて立食ビュッフェ形式で行われ中締めのおと「フェローシップアワー」と続けました。

2日目、9時から日曜礼拝(献金177,750円は東日本大震災、熊本地震復興支援金として日本YMCA同盟へ)、その後山田公平さんの講演「ワイズとYMCA、今後への期待」があり、続いて清水弘一さん(石巻広域)と亀浦正行さん(熊本にし)による東日本大震災・熊本地震の被災地レポートがありました。次にIBC締結式(千葉クラブ-大阪高槻クラブ)、IBC締結式(大阪泉北クラブ-台北A-LISTクラブ)が執り行われました。最後に東西日本区大会のアピール、田中実行委員長による閉会のことは、YMCAの歌で閉会点鐘となりました。今回の東西交流会は西の方々との旧交を温めまた新しい出会いがありと、私にとって実り多い会でした。

東新部設立20周年記念・

EMCシンポジウムにパネリストとして参加

板村哲也

日時：2月18日(土) 13:30～16:30

会場：東京YMCA山手センター

参加者：東新部21名、関東東部6名、あずさ部12名、
湘南・沖縄部2名、ゲスト1名 計42名

東新部主催の掲題シンポジウムにパネリスト6名の1人として参加した。

最初に伊藤東日本区LT委員長よりEMC発展のための課題提起があり、東新部および東日本区の会員数が20年間(1997～2017)に夫々5割、3割減少している

推移が実数で示された。続いて菅谷東京YMCA副総主事より「東京YMCA新中期計画とワイズメンズクラブへの期待」についてのスピーチがあり、その後メインイベントのシンポジウムとなった。

シンポジウムの目的は、「なぜ会員が減るのか?」ということよりも「なぜ増えないのか?」のヒントを探ることであった。これまでのワイズメンが「良かれと思っている」「気付かないでいる」ことがもしかすると、その原因としてあるのではないかとの考えで、ワイズ歴の浅いワイズに率直な意見が求められた。各自ワイズ入会の経緯・動機とワイズになってからのワイズの印象(プラス面、マイナス面)について発表した。

このテーマは昨秋来当クラブ内で議論を続けていることの一部でもあり、当方の率直な印象・所感を述べさせて頂いた。発言の趣旨は次の通り。

ワイズは精神も会員も素晴らしいが、組織や行動様式に改善が必要と思う。ワイズの目的や魅力が見えにくい。組織が複雑で大きすぎ、その維持管理に本来の目的(奉仕)よりも多大な時間、労力、資金をつぎ込んでいる。時間、お金、生活に余裕のある人のクラブで、これがない人には難しい団体。日本ではこれらの余裕のある世代(高齢者)は今がピーク。これからは人口が減少し肥大した組織を維持することが出来なくなり、30年後にはアメリカ、イギリスの様な末路を辿るのではないかと。また奉仕活動よりも組織間、仲間内の社交とその準備に多くの時間、労力、資金を費やしていると見える。また活動形態・様式が時代にそぐわないもの(時代遅れ)になっているのではないかと感じる。集まって飲食と歓談で時間を過ごすというのは社交や娯楽の種類・機会の無かった、或いは少なかった時代、地方(田舎)では良かった。しかし、時代も社会も変化し、先進国や都会では個人の生活スタイルや好みが多様化し、それに応じた機会が溢れている。それは社会奉仕活動についても同じで、いろいろな社会奉仕団体ができ、それぞれに活動をしている。環境の変化と競争の中でワイズの特色や魅力が薄れているのではないかと。世間(非ワイズメン)は種々の選択肢を持っており、ワイズが選択されるための決め手となるものがないのではないかと。また選択肢が多い環境下での競争では宗教色は不利と思える。

その後、出席メンバー全員が小グループに分かれて、パネリストから出た感想、意見でキー・ヒントになるようなことがらにつきディスカッションを行い、最後に参加者一同による「決意表明」を採択し終了した。当クラブよりの参加者：山口、伊佐、渡辺、大輪、麻生、野尻、板村(計7名)

以上

22日の第二例会の報告です。

- ①江夏さんの健康増進カフェは実現を目指して進めていきたい。江夏さん、中里さん、山口で話す機会を持ち3月の第二例会で今後の方向を検討する。
- ②くにたちさくらフェスティバルは4月1日2日。今年も2区画申し込んだ。3月1日6時半より西Yで実行委員会を行い、具体的な内容を検討する。参加できる人はぜひ参加を。アイデアをもってきてください。
- ③東西交流会の時に山田さんからの提案。ワイズとYMCAの委員会を作り関係の在り方などを話すようにしていきたいとのこと。
- ④4月例会のスピーカーは未定であるが、子供食堂の話、リビィを担当していた秋田さんの話を聞くなどの案が出て

いる。会長のところで検討していく。

- ⑤6月の第一例会はクラブ総会として行う。
- ⑥3月8日(水)午後4時から6時、国立駅前で東日本大震災募金を実施する。例会の日なので早く来てぜひ協力を。少しの時間でも可。質問等は出沼さんまで。
- ⑦ブリテンについて検討をした。簡素化していきこととした。基本は2ページで、記事の多いときは4ページとする。評議会など他クラブも共通のものは記事にせず、参加者報告にとどめる。クラブ独自のものを載せていく。
- ⑧次期役員は次次期の体制も併せて考えていく。板村次期会長を中心に人選をしていく。皆さん協力をお願いします。
- ⑨次の検討課題は例会の在り方 3月第二例会から検討を始めます。よろしくお願いします。

<西東京YMCA便り>

出沼一弥

▼2月のプログラム報告

2/4・5	障がい児・者対指導リハビリトレーニング	丸沼高原スキー場(尾瀬)	リーダー19名参加
2/18-19	「Smile」1泊会	東京YMCA妙高高原ロッジ	11名参加
2/19	「シャベルズ・いずみの会」2月例会	クッキング	17名
2/26	「にこにこ」2月例会	武蔵国分寺公園・終了式	13名参加
	「ロビンソン」2月例会	武蔵国分寺公園・終了式	19名参加
	「あおぞら・つばさの会」2月例会	山手線めぐり	18名参加

▼3月の主な予定

3/4	中高生野外活動「TeenS」3月例会
3/8	災害支援募金活動 国立駅周辺 16:00~18:00
3/26-30	シーハイルキャンプ(対象:年中~小6 場所:妙高高原ロッジ)
3/26-30	オール東京 ユーススキーキャンプ(対象:中高生 場所:妙高高原ロッジ)

▼活動紹介

西東京コミュニティーセンターで行っている「プログラム」について紹介します。今号は「ASCAクラス」についてです。

「ASCAクラス」は、発達障がいやその周辺に課題があると言われる小学1年生から20歳までの方を対象とした活動です。<Academic Skill: 学力>、<Social Skill: 社会性>、<Communication Skill: コミュニケーション能力>、<Association: 仲間作りの場>の頭文字をとってASCAクラスと名付けられました。ASCAクラスが誕生したのは今から20年も前になりますが、当時の日本では、発達障がい児・者を対象とした施設やサービスも整備されていませんでした。その中で、東京YMCAが東京学芸大学名誉教授の上野一彦先生、明星大学教授の小貫悟先生と協力して日本でも先駆的な存在としてASCAクラスが誕生しました。最初に西東京センターで始まったASCAクラスですが、今では高田馬場にある山手センター、経堂にある南センター、東陽町にある東陽町センターでもクラスが開講しています。

現在、ASCAクラスは21名が通っていて、対象者の発達段階での課題や心理検査を通して分かった特性を踏まえてプログラム作成をしています。ASCAクラスでは、ソーシャルスキルを<仲間に入るスキル>、<言葉で伝えるスキル>、<周りの様子を察するスキル>、<気持ちを理解するスキル>、<自分や他者を知るスキル>の5つの視点で考え、スキル取得と向上を目指しています。中学生以降のクラスでは社会での人と付き合い方やマナーを学んでいます。(この一般社会での人付き合いやマナーは「ライフスキル」と呼ばれます)。

ASCAクラスの活動では、ソーシャルスキル・ライフスキルを学ぶことで、一人一人の子どもが豊かに人生を歩むためのお手伝いをするのが目的となります。クラスのプログラムを作成する講師だけではなく、そこに関わるボランティアも子どもたちの将来につながるようなお土産をどうしたら残せるのかを日々考えながら活動に取り組んでいます。

指導員 樋上巧洋(きしめん)

3月、その他の予定

- ・3月1日(水) 桜まつりミーティング(西東京センター 18:30~) 4月
- ・4~5日 次期会長、部役員研修会(東山荘)
- ・8日(水) 災害支援募金(国立駅 16:00~) 第一例会(西東京センター 19:00~)
- ・9日(木) 東京サライズクラブ例会(板村さん卓話)
- ・16日(土) 地球市民育成プロジェクト外認証式(在日本韓国YMCA 13:00~)
- ・22日(水) 第二例会
- ・31日(金) さくらフェスティバル前日準備
- ・1~2日 くにたちさくらフェスティバル
- ・12日(水) 第一例会
- ・20日(木) T.S.T.クラブ記念例会(香港)
- ・26日(水) 第二例会
- ・6月 3~4日 第20回東日本区大会(川越)
- ・7月21~23日 第27回アジア大会(タイ・バンコク)